

マスコミ各位

平成28年8月25日(木)
沖縄県保健医療部 健康長寿課
担当：山内、仁平
098-866-2209

レプトスピラ症の発生（注意喚起）について

県内では、例年6～10月にかけて、主に河川でのレジャー等の際に感染したと考えられるレプトスピラ症患者の増加がみられます。

今年は6月に2例、7月に1例が県内でレプトスピラ症と診断されましたが、8月には新たに7例が診断されています。これら10例のうち4例は沖縄本島、1例は石垣島、5例は西表島が感染地域と推定されます。また9例は河川、1例は水田が感染源と推定されます。

レプトスピラ症の原因菌は、ネズミやマングース等の野生動物の体内に潜んでおり、尿中に同菌を排出することから土壌や河川を汚染することがあります。特に雨降り後の河川では、汚染された土壌が流れ込むため注意が必要です。

県民の皆様は、①皮膚に傷がある場合は、河川での遊泳を控えるなどの予防対策を心がけるとともに、②河川での遊泳やレジャーの後、2週間以内に突然の頭痛、発熱、筋肉痛の症状がでたら、すぐに医療機関を受診し、河川に行ったことを医師に伝えてください。

【患者の情報】

症例	診断日	年齢	性別	推定感染地域	推定感染源	備考
No. 1	H28. 6. 23	50 代	男性	西表島	河川	
No. 2	H28. 6. 27	40 代	男性	西表島	水田	
No. 3	H28. 7. 14	30 代	男性	石垣島	河川	
No. 4	H28. 8. 4	40 代	男性	北部地域	河川	
No. 5	H28. 8. 5	30 代	男性	西表島	河川	
No. 6	H28. 8. 9	20 代	男性	西表島	河川	
No. 7	H28. 8. 10	20 代	男性	西表島	河川	
No. 8	H28. 8. 18	20 代	男性	北部地域	河川	
No. 9	H28. 8. 19	10 歳未満	女性	北部地域	河川	
No. 10	H28. 8. 19	10 歳未満	女性	北部地域	河川	

【レプトスピラ症について】

原因：病原性レプトスピラ（学名：*Leptospira interrogans*）。細菌。

潜伏期間：3～14日

主な症状：頭痛、発熱（38℃以上）、筋肉痛・関節痛、結膜充血。

重症になると、腎機能障害、黄疸などの症状が現れ、治療しないと死に至ることもあります。

治療：ペニシリンやストレプトマイシンなどの抗生物質が有効とされています。

保菌動物：病原性レプトスピラは、ネズミやマングースなど野生動物の腎臓に潜んでおり、尿中に菌が排せつされます。

感染経路：病原性レプトスピラを保有している保菌動物の尿で汚染された土壌や水と接触する際に、皮膚の傷、鼻や目の粘膜を通して感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。

感染症法：四類感染症

【予防方法について】

1. 皮膚に傷がある場合は、河川での遊泳を控える。
→これまでに報告された患者のうち、多くの方が河川で泳ぐ際に皮膚の裂傷があったことが確認されています。
2. 河川や滝などの生水はそのまま飲まない。
3. 水田、山林で作業をする場合は、長靴や手袋を使用し、土や水との直接的な接触を避ける。
4. 捕獲したネズミなど、素手での野生動物との接触をさける。

※ 川遊びをした後や、畑、水田、山林などで作業した後、3～14 日以内に発熱、頭痛、筋肉痛などの症状がでたら、すぐに医療機関を受診し、川遊びなどの状況を伝えてください。

【参考】

レプトスピラ症の推移（2003 年～2015 年）

年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
全国	16	7	17	24	34	42	15	22	26	30	29	48	33
沖縄	16	7	7	4	21	28	7	10	7	6	7	28	13

※レプトスピラ症は 2003 年 11 月に 4 類感染症に指定

レプトスピラ症に気をつけよう

レプトスピラ症の原因は病原性レプトスピラという細菌で、電子顕微鏡で観察すると図1のようならせん状の形態をしています。

この菌は、ネズミやマングースなど野生動物の腎臓に潜っており、尿中に菌が排出されます。ヒトは、これらの動物の尿に直接接触したり、尿で汚染された土壌や水と接触する際に、皮膚の傷、鼻や目の粘膜を通して感染しますが、ヒト→ヒトへの感染はほとんどありません。

ヒトがこの菌に感染すると、1～2週間後に頭痛、発熱（38℃以上）、筋肉痛、目の充血などの症状が出ます。重症になると、黄疸や腎障害などの症状が現れ、治療しないと死に至る場合もあります。治療には、ペニシリンやストレプトマイシンなどの抗生物質が有効とされています。

感染の機会は、川での遊泳、農作業、カヤックなどのレジャー、土木作業、ネズミとの接触などがあり、沖縄県は全国と比べると患者の発生が多い地域です。過去25年間における県内の患者発生状況を見ると、毎年6月～10月にかけて多く、特に本島北部と八重山地域は8月と9月に川での感染が多いため注意が必要です。（図2,3）

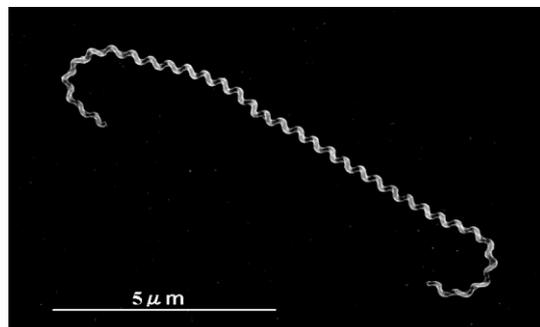


図1 レプトスピラ電子顕微鏡写真
（愛知医科大学 角坂照貴先生提供）

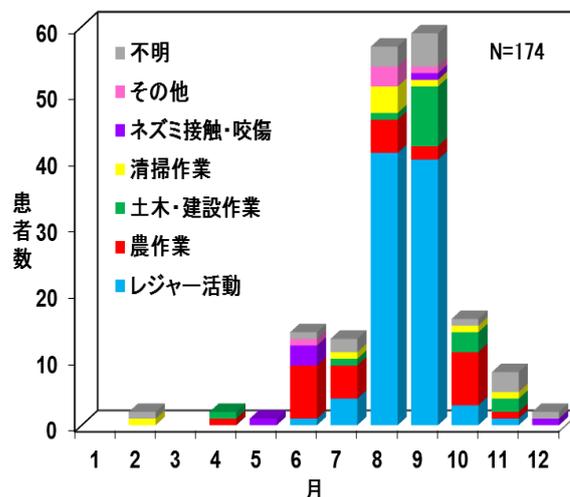


図2 月別患者発生数と感染機会 (1988～2013)

予防のポイント

- 1 水田、山林で作業をする場合は、長靴や手袋を使用し、土や水との直接的な接触をさける。
- 2 皮膚に傷がある場合は、川で遊ばない。
- 3 捕獲したネズミなど、素手で野生動物との接触をさける。
- 4 川遊びをした後や、畑、水田、山林などで作業した後、3～14日以内に発熱、頭痛、筋肉痛などの症状がでたら、すぐに受診する。

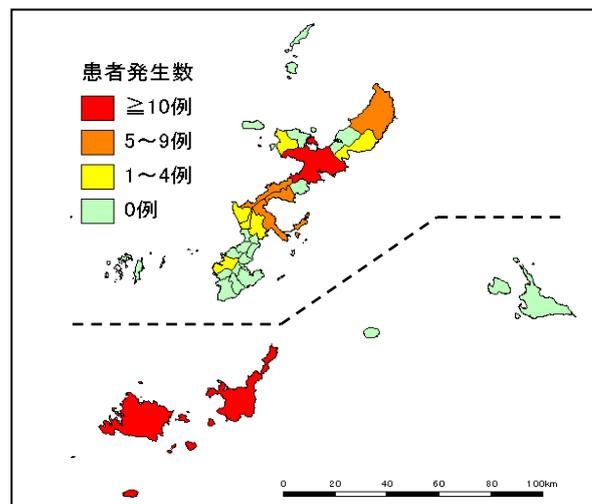


図3 市町村別患者発生状況 (1988～2013)

もっと詳しく知りたい方は・・・

※ レプトスピラ症 国立感染症研究所感染症疫学センター

URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/531-leptospirosis.html>